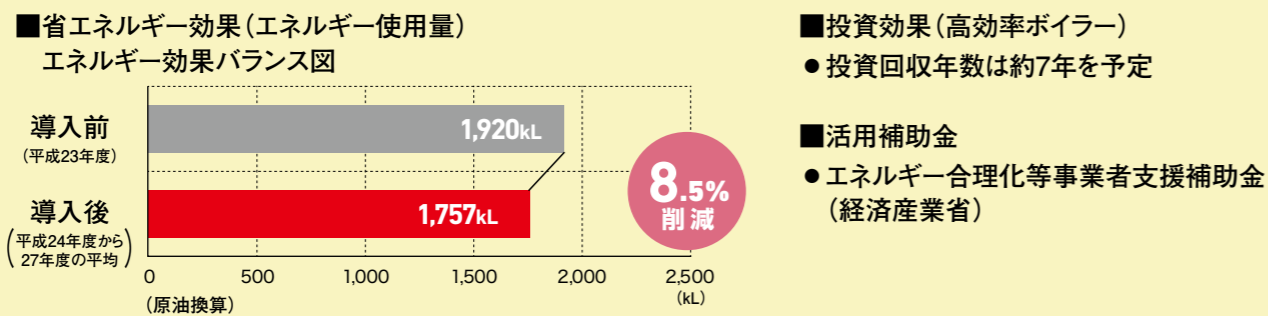




# 省エネニュースや取組結果の掲示等で 職場内の省エネ意識を向上

## DATA ▶ 省エネ効果



## 取組の経緯

- 工場のエネルギーの99%を占める重油と電気のエネルギー削減・管理が重要であったことから、平成18年10月「省エネルギープロジェクト」を発足させ、工場棟1棟毎の生産量・稼働時間・物的生産性等とエネルギー消費を関連付けてエネルギーの見える化を基本に推進するとともに、省エネに係る様々な設備更新を計画・実施してきました。
- 特に工場棟3棟の内、築41年(昭和49年建設、60年増改築)の建物および設備が老朽化し、エネルギーロスが多いと推測されたこと、蒸気・電気配線系統等不明な部分があったことから、3棟の工場棟の日々のエネルギー消費量を把握(見える化)することが重要と考えていました。
- 加えて、東日本大震災後、電気料金が上昇し、会社の収支に大

きく影響がでたことから、さらに省エネの取組を加速させました。



蒸気ボイラー

## 省エネバリアとその克服

- 投資金額の回収期間が長期になるものは実施しにくい。
- 全体では測定できるが個別の機器に計測装置がないことから、効果が明確に判りにくいものは更新を進めにくい。
- 新しい設備に関しては実績が判らないので、メーカー等からの説明は受けるが実施はしにくい。

以上から、トップのリーダーシップ

と事務局の資料のまとめ(見せ方)が重要と考えています。

## 今後の取組計画

- 主な工場棟が築40年を超え、付帯する生産設備も古いものが多いため、「中長期エネルギー計画」を策定し順次更新を計画しています。
- 排水処理場に前処理設備を設置して処理場の負荷を低減させ、処理に関わるブロー電力の削減を行います。
- 変圧器を含む高効率設備の更新を検討します。
- 引き続き工場照明器具のLED照明への切換えを順次行います。
- 機械の廃熱、地下水の利用、熱交換器の廃熱利用などを検討します。
- コージェネレーションシステムの導入を検討します。

## 具体的な取組概要

### 省電力化

デマンドコントロールの自動化(ピーク時カット用発電機併設)、自動計測装置の設置、冷却設備、空調設備の更新、コンプレッサーの分散化、55kW×2基のコンプレッサーをインバーター付き55kW×1基、37kW×1基に更新しました。

### ボイラー燃料の消費量把握と改善

当初は貫流ボイラー3基に水量計・油量計を設置し、日々それぞれの蒸発効率を管理して、効率の高いボイラーを優先して運転し、併せてボイラーの更新時期の検討を行ない、離れた建物への蒸気の供給はロスが多いことから、その建物の近辺に専用ボイラーを設置・分散化しました。冬期間、外気温度が-5℃になると生産にかかわらず、休日・夜間でもボイラーを自動で暖機運転に切り換えています。人の操作から自動運転に変更したことでロスが減少しました。ヘッダーに電動弁を

採用し、圧力制御により自動運転にしたことでロスが減少しました。現在は高効率ボイラー(環境負荷低減ボイラー)へ変更と併せ重油からLPGへの燃料転換を図り、環境への配慮を進めています。

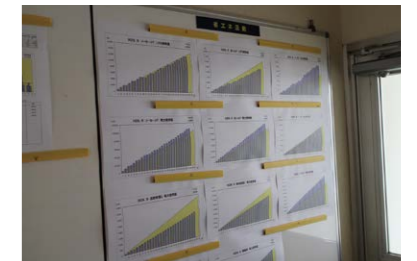
### その他設備の更新等

平成26年に受電室の高効率変圧器2基を更新したほか、改善効果の大きい外灯について水銀灯から順次LED化を実施しました。また、使用時間の少ない場所やつけっぱなしの恐れのある場所の照明設備に人感センサーを設置しました。事務棟の断熱材は老朽化で効果が全くないので更新しました。更に照明の使用時間も長い(8時間以上)のでLED化したほか、空調の温度セット、運転時間の集中管理を実施するため集中管理システムを導入しました。冷却効果を高め、より省エネルギーな運転を行うため、空調・冷凍機の室外機に遮光シートを設置し、それに直接散水を実施しています。

## 他の事業者でも活用できるポイント

### 省エネに対する意識の向上

省エネルギーニュースの発行や、工場合同省エネ会議の毎月開催、各職場別に省エネ取り組みメニュー(毎月)の結果報告、各職場の取り組み結果の掲示により、職場内での省エネに対する意識を高めることができます。



取り組み結果の掲示

### 少ない設備投資での省エネ効果

電力ピークの平準化を図るため、各職場の昼休み休憩に時差体制を導入したほか、照明のLED化や照明設備に人感センサーを設置するなど、少ない設備投資で省エネ効果を高めることができます。



安平町

業種 食肉製品製造業

### 【会社情報】

- 所在地 / 〒059-1433 勇払郡安平町遠浅40番地1
- 代表者 / 代表取締役社長 鹿嶋 健夫
- お問い合わせ / TEL 0145-26-2280
- URL / <http://www.saveur.co.jp/>

グループ会社が「全ての資源を慈しみ/有効に活用し/環境負荷の最小化を常に考え/かけがえのない自然環境との/やさしい調和を目指す」の環境方針の下、様々な取組を実践しています。恵み豊かな自然から生み出される食材を慈む私たちは、「環境への配慮」を優先し、自然とのやさしい共生を目指しています。

